

■ Site Analysis



■ Concept

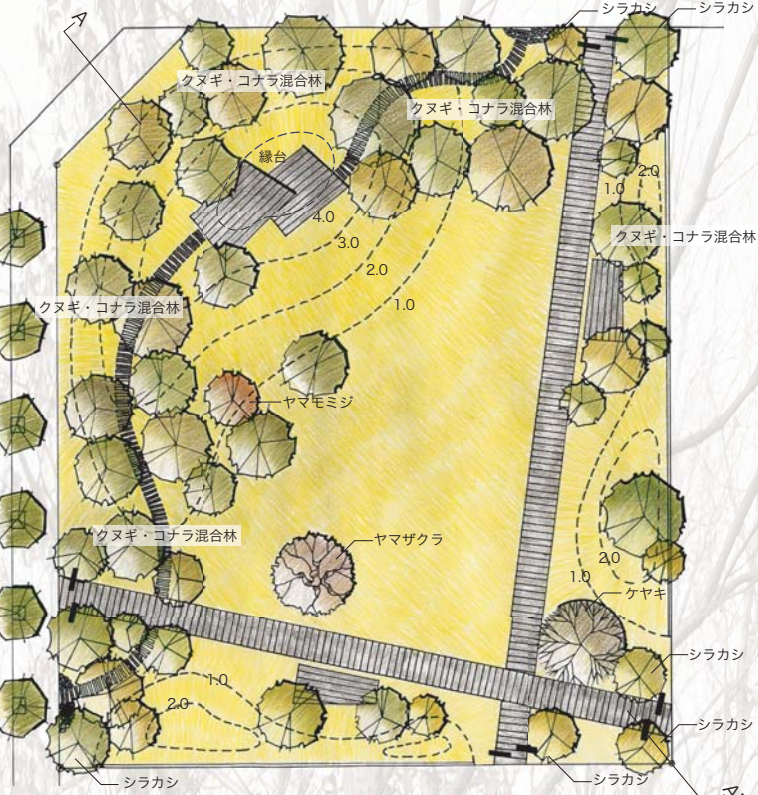
この公園は、都市で身近に感じることのできる自然を取り入れ、季節や動植物を体感することができる雑木林の広場である。対象地である公園の周囲は新たに計画される住宅地に囲まれている。その周辺には総合公園、近隣公園、街区公園があり、教育施設も存在する。今まで、公園と住宅地は形式的に分離されていたが、公園と公園を結びつける軸を設定することで、間接的に緑を繋げ、その軸を人々が横断し、公園と周辺地域の住民が関わることで、現在失われつつある近隣住民とおしの関わりをもう一度作り出し、地域の活性化に貢献する公園である。最も身近なこの街区公園は、人々が集うオープンスペースを確保し、防災時の一時避難所としての役割も果たす。公園外周部には計画住宅地造成で発生した残土を利用した築山を設け、クヌギとコナラで構成された雑木林で公園のバックグラウンドとなる背景を創出する。この雑木林には散歩道を設けることで、山頂部の縁台にアクセスすることを促し、木漏れ日を感じることができる。

■ Diagram

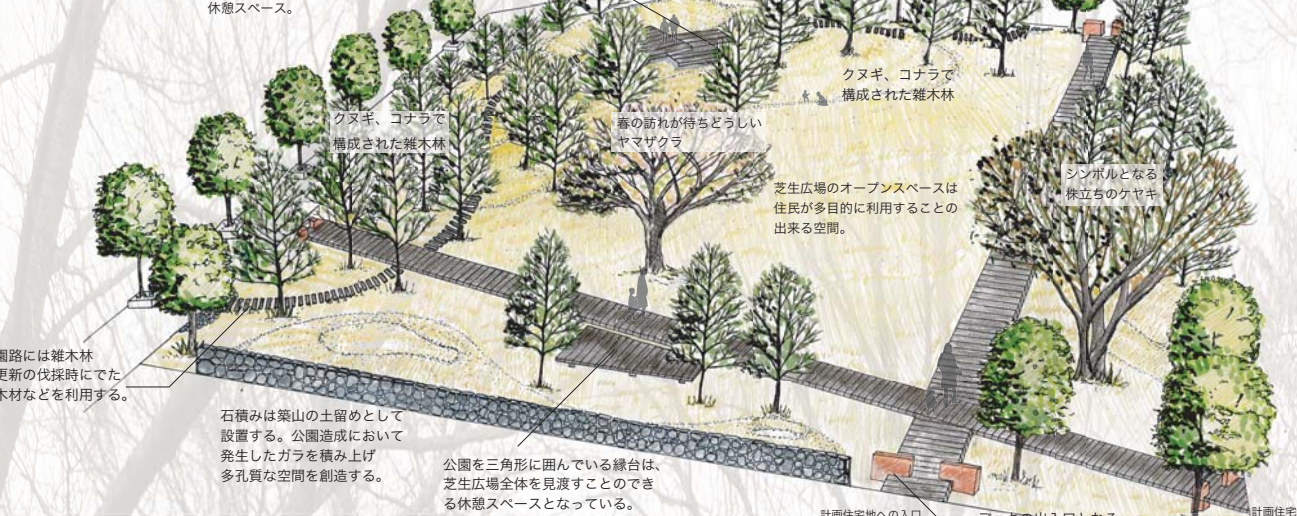


公園入口は計画住宅地への道に通じる2本のデッキは、住宅地と公園を繋ぎ新しく創造される公園軸である。街区の形態から公園を横切る動線が予想されるが、この公園軸の設定により、計画住宅地内からのアクセスが可能となり、地域の連携が創出される。園路は雑木林の中で、木漏れ日を感じながら歩き、自然を体感できるショートカットロードとなっている。

■ Master Plan S=1:200



■ Perspectives



■ A-A' Elevation S=1:100



■ Program

雑木林は人の手によって保たれている。雑木林更新のため伐採を行うが、すべての木を切ると木がなくなってしまう。そのため、木の植える時期をずらし更新を進めていくことで現在ある雑木林の姿が保たれる。

■ Administration

公園の管理として、住民参加型の雑木林の更新を行っていく。住民の成長と共に公園の移り変わりを見ることのできる更新を楽しむ公園にもなっている。伐採時に出た間伐材を使い、アート、ベンチや歩道との境界のフェンスがわりなどに利用することで、無駄のない実用林として位置づける。

■ Image Sketch

